雜錄

◉製鐵事業界前途　保護政策を切望す

香村小錄氏談

休戰に入つて以來俄に暴落を呈したる鐵價は近時幾分の活氣を見るも元歐洲大動亂の影響を受け一時の好運に乘して俄に勃興したる我製鐵事業は其發展の急速なりし丈け根底の不安定なるものあり、其暴騰の原因止みたる今日悲境に陷りたるは止むを得さる處なり、抑々製鐵業の發達は國防と多大の關係を有し、緩急の場合に際して自給自足の上より閑却すへからさるのみならす、工業の基礎獨立の上より見て、斯業の發展は我國產業と重大なる關係を有す、而して今後我製鐵業か果して如何なる經過を取るへきか政府の對策如何は斯業の興廢に關す、尤も我製鐵勃興の原因を見るに鐵鋼は內地に於て供給し國家の獨立に貢獻せんとする國家的精神を以て企業したるものなり、或は政府の希望を容れて開始せるものもあるへく或は市價の暴騰に刺戟されて事業に着手したるものもあらんか、成因の何たるを問はす兎に角斯業の盛況を見、鐵鋼自給の目的に接近したる事は國家の爲め大に祝福すへく又當業者の努力を多謝せさるへからす、而して今日は實に日本の製鐵業と云ふ大局より見て公明正大なる觀察を下し國家的見地より愼重に考慮して百年の大計を誤らさらんこそ緊要なるを信するもの也今や內輪同志の競爭を避け、外敵防禦の對抗上國際汽船會社の成立を見たるか之れと多少性質を異にせる製鐵事業も亦想ひを玆に致さゝるへからす、夫れ產業の合同は世界の大勢也、單に製鐵業のみならす本邦の基礎工業の維持發展策に就ては要するに唯此二途あるのみ一は即ち對內的にして事業合同多量の生產を計り組織的作業をなして自强を計る事、二は對外的にして適當なる外敵防禦の途を講する事之れなり、而して此對內政策に就ては何人と雖、議論の餘地なし、三井、三菱、東洋製鐵さては安川にしても支那より鐵鑛を得るに際し別々に交涉するに於ては勢ひ彼れに乘せらるか故に資本を集中して大合同を決行せは生產費の點よりするも分配融通の點よりするも極めて望ましき事となる。

翻て考ふるに三井の北海道に於ける三菱の朝鮮に於ける皆各投資の法を異にし特殊の營業方法あるのみならす、斯く大合同となれは政府所管の八幡製鐵所拂下問題も起り經濟上異議なしとするも民間との問題は實際上容易ならさるか上に資金狀態營業方針の異なる大小無數の會社を合同する事困難なる事情あるを以て余輩一個の考へとしては關稅一方のみの主張を有するもの也、即ち輸入稅を今少し增加し關稅を引上くる事の最も行ひ易く我製鐵業を維持し行く上に效果ある事と信するものなり、尤も關稅を高むるに就て

考慮を要すべきは多量の原料を要する綿糸紡績業乃至羊毛等に對して歐米に於て反動的の態度に出つるの恐れある事也然れとも英國も濠洲も自國產業の發達に就ては關稅の必要を認め戰前迄は關稅なき自由貿易國たりし英國すら尙且つ戰後は保護政策に傾き濠洲の如きは既に實行しつゝあり又之れを關稅史に徵するも國定稅率は弱國より强國となるに從ひ漸時發達を遂け弱國は輸入品に對して殆んと無稅なるも國勢の發展するに連れ漸次外國の承諾を得て稅率を高め得るは我國の歷史のみならす支那の關稅實行に見ても首肯さるゝ處、而して今や我國運の進展と共に稅率も引上けられたりと雖、歐米に比し尙對當なりと稱し得す、强國は意の儘に稅率を制定し得るか故に戰前に於ける獨、佛、伊露皆高く殊に露國の如きは極端に高く自由貿易たる英國を除きては今日の我國の稅率に比し概して三倍の稅率を課せり、故に今日の我國の地位としては列强同等に高むるも敢て差支なきのみならす、又不可能なりとせす、尤も關稅を高め製鐵保護を爲すの結果其地の鐵價の騰貴するには造船業者を始め一般需用者に取り苦痛を與ふる所以にして國家として不利益なりと云ふ者あり、之れ當然にして最も深く考慮を要すへき處なるも余輩の製鐵保護を主張する理由は本邦製鐵業を發達せしめ國防上の安全を確保せんとするのみならす、他日內國に於ける鐵鋼の供給を潤澤にして其價格を低廉ならしめ以て一般を利せんとするに在りて決して高價なるものを永久に使用せしめんとするにあらす、尤も保護の實施に依り一時鐵價の騰貴するは免れさる處なりと雖、之れ軈て低廉豐富なる供給をなすの準備として或期間の犧牲を拂はさるへからす、此は關稅を引上けたる諸外國の例に見るも明かなる處なるか今は外國に對する遠慮と內地に於ける消費者の抗議との二理由によりて關稅引上けを躊躇すへきの時にあらす、之に就ては大藏省も戰時中より調査を遂け居るのみならす、東京大阪の商業會議所にも兼ねて諮問せる事あり、關稅政策に就ては一定の考案を有するに相違なく大藏省も農商務省も具體的に進め居る者と信すへき理由あり、若し夫れ或論者の如く狹義の自給不能にて直に我國の製鐵業は發達の見込なしと斷言するは餘りに早計と云はさるへからす、見よ世界中自國產の鐵鑛のみを以て製鐵するは獨り米國あるのみ、英と云ひ獨と云ふも孰れも多大の原鑛を海外に仰きつゝあり、我國の如きも工業國として立つ以上は速かに海外の原料を利用し之を精製加工して內外の需用に應するの策を講せさるへからす、內地に原料無きの故を以て之を排斥せは綿絲紡績の如き大事業も亦遺棄して可なりと謂はさるへからす、原料たる鐵鑛は我版圖たる朝鮮滿洲に於て豐富なるものあり、殊に隣邦支那及南洋にては將來世界の富源たらんとするものありて之れか開拓を待ちつゝあり、之を要するに對內政策としては產業の統一多量製產の上よりして大合同を畫し、對外政策

としては外敵防禦の上より關稅政策に出つる事は目下の急務なる事敢て喋々を要せず、只單に合同をなし經濟的の設備を完全にするも之のみを以てしては原鑛の豐富にして設備の完成し兼ねて多年の經驗ある英米諸國に對抗する事至難なるか故に對內自强策と對外防禦策とを並ひ行はされは尙未た幼稚なる我製鐵業の發達を期する事を得さるへし、或は對內自强策を唯一の要件として對外防禦策を閑却し甚たしきは之れを不當として攻擊するものあるは恰も小兒に對して防寒の準備を度外視して自强自健を强ると一般、對外防禦の政策を確立するにあらされは對內自强も必竟無に了るへきのみ、故に余は我國製鐵業に對する保護は長くとは云はす、七年乃至十年關稅政策を行ひ其間合同するものは合同して對內的基礎を立て需用の大部分自給し得るに至らは漸次關稅も低下し價格も低廉ならしめ得る事と信す我國の石炭は英米に比し少しと雖、尙豐富なる水力電氣を製鐵業に使用して今や鐵鑛漸定法の如きあるも支那の原鑛を有利に得る樣畫策すると同時に大に南洋の原料を輸入するの途を講するに於ては將來我國の製鐵業も爾く悲觀するに及はさるへし。

◉佛國の製鐵業

ローレン州の鐵鑛產地か佛國に復歸するは、戰爭か生せる顯著なる產業上の一結果にして、將來世界の製鐵界は之れか爲に面目を改めんとす、戰前獨逸は鐵鋼の輸出國として重きを爲し、ローレン州に於ける鐵鑛は、同國工業發達の一大原因を爲せしか、今や此地方は佛國に復歸すへき運命となれり。然らは之れか爲め世界の製鐵界、就中英、米兩國の製鐵界に如何なる結果生すへきや、普佛戰爭後獨逸かローレンを獲得するに至れる當時英國の製鐵額は獨逸に四倍し、其の輸出鐵額は六倍し居りしか、先頃戰爭開始當時に於ては製鐵額並に其の輸出額に於て英國を凌駕し居たり。然るに今や斯業に於ける獨逸の生產力並に競爭力は、佛國ローレンを回復し、獨逸は其從來有せる鐵鑛區三分の二以上を失ふに依りて痛く減少し、佛國の生產力並に競爭力は、夫れ丈け增加するに至らんとす。一部の人士は將來佛國は獨逸に代り英米の製鐵業に競爭すへしと觀測しつゝあるか果して如何、惟ふに今後多年に亘り鐵鋼に對する世界の多大なる需要に應せんか爲め製鐵國は、自然一致協力するの必要を生し、注文の取得に競爭するの必要なけれは、佛國は米國の競爭國たるへしと推し難し、次に將來競爭行はるへしとするも、其の競爭は正々堂々たる競爭なるへく、獨逸の如く政府の補助乃至ダムピングを以て、競爭國を惱ますことなかるへしと推せらる、尙製鐵業に於て佛國は、地理上不利なる地位に在り、大陸に於ける主要なる鐵鑛所在地は其所有者か佛國たると獨逸たるとに論なく、盡く炭田を距ること、遠き地域に在り製鐵所は、石炭の關係上大抵海岸より程速き內地に在り、此の地理的不便は、英國の當業者と競爭し難からしむる一原

因にして、獨逸にまれ佛國にまれ政府の補助等あれは兎に角、然らさる限り英國に對し恐るへき競爭國たる能はす、佛國はローレンの鐵鑛取得に依り製鐵界に於て、新しき地歩を占むへき事は疑を容れすと雖、其の製鐵所は輸出の目的より之を見るときは、好適の地利を占め居らす、從つて同國の鐵鋼輸出は、前途好望なりと稱し難し、加ふるに佛國勞働者は農耕に從事する場合頗る勤勉にして、滿足を懷くも製鐵業の如き勞役に服するときは能率皆無なり、蓋し佛國人は農業國民技藝的國民にして製鐵、造船航海の如き職業に適合せされはなり、尙獨逸國民の如く世界の市場より他邦を驅逐せんと欲するか如き滿々たる覇氣を有せす、去れは今後英、佛兩國製鐵業に關して競爭ありとするも其競爭は左まて恐るゝに足らさるへき歟。（鐵世界）

◉本邦製鐵業の前途　昨夏五百圓以上に暴騰したる銑鐵は、休戰以來其暴落の甚たしく昨今の市場は百三十圓見當を唱ふるに至り、其生產費は百十五圓見當なれは依然として困難なる事業と云ふの外なかるへく、現に從業操業中の熔鑛爐中或は中止するものあり、即ち三菱兼二浦製鐵所は從來百五十噸熔鑛爐二基を以て操業せしも目下一基丈け操業を中止するの止むなき狀態にあり、次に殆と操業の中止を見るに至れるは夫の再銑鐵業なりとす、蓋し鐵價の暴騰に從ひ一時再銑鐵三百一二十圓を唱へし時には、一噸にて五六十圓の利益ありて相當の有利事業なりしも一號銑鐵にして百三十圓內外に過きさる現狀にては製鋼業者か再製銑鐵の如きものを使用する者なきは當然なり、然らは鑄鋼品等の鋼製品を精錬すへき事業は如何なるやと云ふに昨年鐵價暴騰當時四圓見當（一貫目）を唱へたる鑄鋼品は今春二月頃に於ては一圓五六十錢見當に激落したるも、昨今は再ひ持直して一圓八十錢內外を唱ふるに至れり、即ち一噸にては四百八十六圓なり、之か生產原價は二百二十圓なるか製品一噸を精錬するには約二割の損製品を見込まさるへからされは鑄鋼品一噸の生產原價は二百六七十圓となるへく、若し四百八十圓にて何程にても販賣し得へしとせは多大の利益事業たるに相違なし、然も各會社は昨年來何れも金融の困難を來したる結果、某會社の如きは頗る安値にて賣急き居る狀態なりと、以上は銑鐵及鐵材製鋼業の大要にして、先つ原料鐵鋼の低落に續き銑鐵の激落にて、製鐵製鋼會社は現在にては必すしも悲觀を要せさる程度に、製品市價の恢復を來したるか、茲に問題となるは鐵價の暴落に從ひ各會社か甚たしき打擊を受けたる事是なり、多くの製鐵製鋼業者中には戰時の價格を標準とし、其需要力の增大と外國品との競爭なきを前提として此種事業の計畫を樹てたるもの尠からさるか如きも、今や平和來により造船其他製造工業は一頓挫して需要減退し、外國品との競爭あり、且價格の崩落を來し初めたる以上、內國に於ける製鐵製鋼事業の經營難は察知するに難からす、最近問題の關稅引上け策

と云ひ、保護金給與と云ひ、其他製鐵事業者の一大トラストを組織せしめ外國品の壓迫に抗すへしと云ふもあり、此等を採りて考ふれは何れも一得一失あるを免れす、然も今や其の孰れかを採用すへき時機にあり、否此實施は焦眉の急なり國家としても今後の製鐵製鋼事業に對しては、適當なる施設を誤らさると緊要にして、我國の製鐵製鋼事業を大に發展せしめんとせは、其原料の大部分は支那内地及滿洲に求むるの外なきなり。當業者の見地や如何に。(鐵世界)

◉製鐵事業概觀　這回の歐洲大戰は世界の製鐵事業に對し深甚なる影響を與へ殆んと戰前の狀態を一變せしめたるか、此の激變せる製鐵事業か將來如何に推移すへきかを知るは寔に至難且重大なる問題にして此難問を解く事は即ち本邦の製鐵政策を解決する所以なりと云ふも敢へて過言に非さるか故に先つ順序として戰前に於ける主要鐵產國の一個年間の生產額を見るに(單位千米噸)

	一九一三年(銑鐵)	同年(鋼)
北米合衆國	三一、四八二	三一、八二三
獨逸	一九、二九二	一八、九五九
英吉利	一〇、四八二	七、七八七
佛蘭西	五、三一一	四、四一九
全世界	七九、三九五	五八、二七六

(但し一九一一年)

即ち合衆國か今日同樣世界製鐵國の主位を占め居たるは勿論獨逸は米國に亞く一大生產國として斯界に優勢なる地位を有したるも、今回の戰敗の爲め根本的打擊を受け將來の推移寔に逆睹すへからさるものあるか這は全く世界斯業の前途を卜するの核心とも言ふへき點なれは少しく獨逸の該事業の一斑を記述せんに、抑も同國の斯業は一千八百六十年代に於ては殆んと萎微振はす僅に世界の第四位を占むるに過きさりしか普佛戰爭の結果アルサス・ローレンを併合し彼の豐富なるミネット鑛を利用して鋭意事業の發展を圖り特にトーマス及ギルクリストか鹽基性製鋼法を發明して以來愈旺盛を來し遂に一千九百三年には英國を凌駕して第二位に進み一千九百三年に於ては九百十萬五千餘噸の銑鐵輸出を見たる盛況なりしか、開戰と共に著しき打擊を被むり生產額は左の如くに低下せり。(單位千噸)

種類	一九一四年	一九一五年	一九一六年	一九一七年	一九一八年
銑鐵	一四、三八九	一一、七九一	一三、二八四	一三、一四二	一一、七七四
鋼	一四、九九〇	一三、二六〇	一六、一八〇	一六、五九〇	一四、八八〇

(但十月迄)

然るに獨逸は敗戰の結果製鐵事業の中心地とも云ふへきロートリンゲン、ルクセンブルグ及ザール地方を喪失する事となりたるか、以上各地喪失の爲め被るへき損失豫想年額は(單位千噸)

銑鐵	七、七九二	全生產額の四十%
鋼	五、七〇三	全生產額の三十%

右に依り戰後獨逸の主產物は戰前の約三分の一を減すへき計算なり、之に反し佛蘭西はアルサス、ロートリンゲン及ザール地方占領の結果著しく生產額を增加すへく試みに

一千九百十三年度の佛蘭西全體並に新占領地方の產出額を擧くれは（單位千噸）

	佛蘭西	アルサス、ロートリンゲン、ザール地方	合計
銑鐵	五、三一一	五、二四四	一〇、五五五
鋼	四、六三五	四、三六六	九、〇〇一

即ち佛國の生產額は戰前の約二倍に增大すへき譯合なるも佛は這回の大戰に依り種々の打擊を受け殊に勞働者の不足甚しきのみならす、同國製鐵事業發達の一大障礙と目すへき製鐵用石炭の不足にして即ちザール炭は元來熔鑛爐用骸炭を造るに適せさるを以て從來同地方の鐵工業者は其消費に係る骸炭の五十四パーセントは他地方より輸入したるものなれは佛蘭西か將來其製鐵事業を豫期の如く發達せしむる爲めには獨逸に對しルール骸炭とミネット鑛との交換を行ふか或は他に骸炭供給の道を講せさるへからす、而して前述の如く獨逸の生產額は戰後に於て戰前の約三分の一を減少すへく現に最近の調査に依る戰前戰後の比較生產額は左の如く明確に之を立證せり。（單位噸）

	一九一四年	一九一九年
一月	一、五六六、五〇五	五〇一、二〇八
二月	一、四四五、五一一	四六九、二〇九
三月	一、六〇二、八九六	五四五、九三九
合計	四、六一四、九一二	一、五一六、三五六

是れに依れは戰前三箇月間の銑鐵生產高は戰前同期間に比し三、〇九八、五五六噸、戰時中に比し一、四二一、六〇六噸の減少にして即ち戰後の銑鐵生產額は戰前の三分の一、戰時の二分の一に當るに過ぎす故に獨逸將來の銑鐵生產額は年額六百萬噸內外にして戰前の佛國と地位を換へ世界第四位に陷落すへし然るに佛國は前言の通り諸種の障礙あるか爲、俄に生產額を激增せしむる能はす、若夫れ英國に至つては戰前世界の第三位を保ち今尙其勢力を持續し居るも從來より勞働者の勢力强烈なる事は豫想外にして殊に最近一兩年來其傾向愈甚しく所謂勞働者の三角同盟なるもの威力を振ひ往々石炭の供給意の如くならさる事ある外工賃の暴騰等の爲め生產費の增加著しきを以て製鐵事業の圓滿なる發達を期する事は或は至難なるへく、唯た最も注目すへきは米國にして同國は大戰勃發後一兩年間は稍生產額を減したるも一九一六年以來逐年激增し遂に一九一七年には四千二百八十萬噸以上に達したるも其の尠からさる部分は軍需用として歐洲方面に輸出せられ普通消費に多く充當せられさりしを以て米國は今後鐵道改良工事を始め平和的施設として國內に於て多量に使用せさるへからす、されは將來海外に對し幾許の輸出能力を發揮すへきやは不明なれは種々鐵物界の將來を察するに世界の鐵生產額特に歐洲方面は案外增加せさるのみならす、各國を通して向後其消費額は相當に增加すへけれは世界の鐵物市場は昨秋より今年當初に於ける崩落を一轉機として徐々硬化するに非るなきか、例へは近時の市況に徵するも內外概ね漸騰步調を辿り殊に外電每に昂騰を報する有樣なれは一方貨物の一般的昂騰と相

俣つて鐵價は漸次昂騰するとも著しく下落する事は萬無かるへしと觀測せらる。

◉米國と製鋼取引の發展　米國及日本との鐵及鋼の取引は歐洲大戰爭の結果著しく發展し公表に依れは米國より日本への鋼鐵輸出高は左の如し。

一九一三年	封度
ワイヤネイル	—
鑄鐵管	九、八二四、三三三
鍛鐵管	一三、七三二、八四六 英噸
レール	二〇、八二〇
鐵及鋼板（鍍金せるもの）	—
鋼板、厚板、薄板	一六、二四一、九六一 封度

一九一六年	
ワイヤネイル	五六、〇〇七、〇九六 封度
鑄鐵管	一一、五八九、七五〇
鍛鐵管	二三、七五二、一一六 英噸
レール	二、九七五
鐵及鋼板（同上）	四、六二八、六〇七 封度
鋼板（厚板 薄板）	一七四、一〇〇、一〇〇、一〇七
	一二、九三四、五三九 封度

一九三八年	
ワイヤネイル	三九、三六二、二九二
鑄鐵管	二四、〇七五、四六五
鍛鐵管	四七、一七三、〇二五
レール	八一、二四三 英噸
鐵及鋼板（同士）	五、三三七、九五三
鋼板（厚板 薄板）	二六九、六八六、五一〇
	一二〇、六四二、八六二 英噸

一九一三年	
建築用鐵材	八、九八一 封度
鉞力板	五〇九、二四五
棘線	—
其他の線	—

一九一六年	
建築用鐵材	二四、四〇五 英噸
鉞力板	五四、二三〇、三六二
棘線	一八、五四〇、六六三
其他の線	四七、七七三、四三八

一九一八年	
建築用鐵材	二四、一九七 英噸
鉞力板	八二、〇八〇、九五七
棘線	四五八、六二七
其他の線	六七、四五〇、九二四

右表にも見る如く大部分は鋼板なるか一九一三年に日本へ輸出せられたる鋼板は僅一六、二五〇、〇〇〇の封度に過きさりしか、一九一八年度於ては實に三九〇、〇〇〇、〇〇〇封度（内六六パーセントは厚板）と云ふ巨大の數字を示したり尚レール管鉞力等も夫々巨額に達したり。其他ニッケル、ニッケルオキサイド等は何等記錄す可き數量なかりしも一九一八年に於ては一二、〇六三、九三三封度を輸出せるか、之を一九一六年度の二四五、九二〇封度に比較すれは實に一一、八一八、〇一三封度の增加なり、鉛は一九一六年には約三二、二八九、四六七封度を輸出せるも一九一八年度は一、七二三、一七三封度に減少せり、白鉛は一九一六年度には只三三、四一〇封度なりしか、一九一八年度には七、五六七、七一九封度の增加を見たり。

◉北炭製鐵合同　北海道炭礦汽船か石狩石炭を合併し資本金七千萬圓として七月三十一日株主總會を開く事とな

りたり、同日更に北海炭礦か直接關係を有し日英の共同出資なる日本製鋼所を北海炭礦三井の共同經營する北海道製鐵會社と合併し、資本金三千萬圓に增資すへく兩社とも同日株主總會を開く事となりたるか斯く北海炭礦及日本製鋼の增資決行は要するに三井の大抱負實現の一端なり、即ち現在北海炭礦株數五十四萬株中三井系の有する株數二十二萬餘株あり、倍額增資の上は四十四萬餘株となり、更に石狩石炭と合併の曉は三井は石狩石炭株の總株式の約七割を有するか故に此の株數十五萬株を添加し、登川礦山合併增資四百萬圓に對する應募株八萬株とにて合計六十七萬餘株に達し北海道炭礦の總株數の殆と過半數を一手に壟斷するに至り、有望廣大なる礦區に大規模の採掘設備を有し遙に九州の三池炭山と相對峙し兩者相俟つて石炭界の覇王となるのみならす、更に進んて日本製鋼所と北海製鐵とを合併せんか日本製鋼は北海炭礦七百五十萬圓英人側七百五十萬圓の折半出資にして北海製鐵は北海炭礦七百五十萬圓三井七百七十萬圓折半出資の會社なれは此の兩社合併の曉には三千萬圓の資本中北海炭礦に於ける三井の勢力は更に一層の强さを加へ自由に其巨腕を揮ひ得るに至るへし、從來日本製鋼は內地民營製鋼の第一位を占め政府と密接の關係あり製出能力五百萬噸の銑鐵熔鑛爐を有する有樣なれは炭礦製鋼合同の三井の雄圖は近き將來には北海炭礦と日本製鋼所を合併し一億圓の大會社となし、總株數の過半數百萬株以上を所有して石炭製鐵製鋼兵器製造の大工業を自家勢力の下に統一して大飛躍せんとするにあり、今回の北海炭礦と石狩の合併增資及日本製鋼北海製鐵の合併も要するに北海炭礦製鋼兩社大合同に赴く階段に過きす、既に今回の增資合併と同時に炭礦製鋼の兩社合併の內議も餘程進捗しつゝある模樣なれは、其の實現も亦蓋し遠かるましき形勢なり。

◉日本製鋼所

日本製鋼所と北海製鐵との兩會社を合併し更に之を炭礦汽船に合併し三井は北海道に於て一億圓の大會社を組織する樣な風說もあるが、併し事實は夫程に進んで居ない、只三井は本道に於ける事業を統一したい希望のあるのは事實であらう、殊に製鋼製鐵合併說は去年の春頃から傳へられて居た、今此說が流布されても地元で今更らしく好奇心を動かす者はない、近頃此說が中央の新聞に記載されたのを見て未だ合併決定に至らぬ迄も俄に局面展開の事實が現れたのではないかと言ふ者もある、併し此間の事情に通じて居る人の話しを聞くに最近に於て夫程顯著の事實が體現しさうな筈はない、定めて炭礦汽船と石狩石炭との合併を基礎として從來の說に聯鎖して製造したものであらうと言ふ、併し何れは合併する事になるであらう、先決問題は英國側の出資の處分であるが、オイソレで決しさうもないさうだ、合併の結果は必ず良好であらう、大株主が三井である以上、經營上の利便は言ふ迄もない、

勿論炭礦汽船と石狩石炭とを合併したやうな譯には行くまいが、總ての點に於て好都合であらう、素人考へとして兩社合併の主たる效力は株主に對する毎期の利益配當及被傭者に對する待遇に大なる厚薄なからしむる點にあると思ふ、即ち兩社の事業は確實ではあらうが採炭、製紙に比して將來を見通し均等なる收益を豫想し難き事業である、異論は無い筈である、時に盛衰を免れない、合併は之を緩和する唯一の良策であらう、合併の間接影響として室蘭母戀輪西の市況を安定せしむる效力があると思ふ。日本製鋼所に於ける過去の道程に階梯を認むるものとせば、之を二つに觀察する事が出來る、即ち同所が明治四十年十一月創業以來社長を替ゆる事五回、最初の井上氏より室田義文、ダグラス、ビッカースを經て山内男に至る間が準備の時代で現社長高崎親章氏に至りて建設の時代に入つたものと見る事が出來る、現社長の就職は大正三年であるが、此當時より社運は稍々順調となり、今は全く其基礎を鞏固にした、社債の償却に歩を進むる事が出來たのも、大正三年以來である、株主配當率が急激なる增進を見せたのも夫以來である、更に職工待遇に周到の意を用ふるに至りしも此期間である原因は種々あるべきも、最も主要の根柢が歐洲戰爭であつた事は言ふ迄も無い此戰爭に因つて製鋼所は全く其基礎を安定せしむる事が出來た、同所の將來に對し世人が安心して大なる期待を爲し得るに至りしも之が爲だ、戰爭に依つて利益を得た製鋼所の戰後に於ける影響は什麼か世人の知らむと欲する處は之である地元を除くの外一般に戰後の製鋼所に對し悲觀の視線を投げて居たやうだ、併し同所は戰後も堂々として何等の影響を受けて居ない姿勢を進めて居る、之は虛勢を張つて居るのでなくて着々事實の上に現はれて居る製品注文を受くる上に於ても戰時中と何等の差は無い、露國行きの軍器丈は戰後製作をしないが、帝國海軍に供給する軍器製作の數量は何等の影響が無い、造船事業の減退によりて造船用の機械製作は減したが、飛行機及工業勃興に伴ふ機械類、汽車の車輪製作の如きは却つて其數を增して居る、同所が目下擴張設備に汲々として居る事は偶然でない云々。（北海タイムス）

◉各國船鐵現狀　日米船鐵交換同盟會は今回各國に於ける船鐵の現狀を調査し關係方面へ通牒したり即ち左の如し。

一、米國にては木造船の建造契約は取消されたるも鋼鐵船の建造は何等減退せる所なく從來職工の現在數は六箇月前に同一にして一箇年前に比し倍數に當れり、今日までの造船契約の完成せらるゝは明後年なり。

二、加奈陀に於て建造中の鋼鐵船は總計四十八隻にして其價格一億四百萬圓なり、其の中太平洋岸の晩香坡に於て建造中の鋼鐵船は重量噸八千百噸のもの四隻なり。加奈

陀の太平洋岸に於る造船業は一昨年來の事にして戰時の急要に應して新設せられたるなり、然れとも其の鐵材は東部諸州よりの供給を仰ける爲、船價は太西洋岸の造船所及英本國の造船所と競爭するを得す、鐵材の運賃は開戰當時より六割方騰貴せり、目下太平洋岸の船價は一噸三百五十圓乃至四百圓にして太西洋岸は三百十圓乃至三百四十圓、英本國は二百七十圓乃至三百圓なり。

三、近時英國より造船材料の和蘭に輸出せらるゝもの頗る顯著なり、其の理由は和蘭の造船所か新船の建造よりも船舶の修繕に重きを置くに至れる結果なり、ロッテルダムのウヰルトン會社は漢堡に於て元墺國の爲に造られたる三萬噸の船舶を容るへき一大浮船渠を買入れたり、以て其の一斑を知るへく英國の船舶にても自國に造船所あるに拘はらす和蘭に向つて陸續其の修繕を託しつゝあるは料金の高下に依るにあらすして和蘭の修繕工事か迅速なる點にあり、何となれは材料は英國よりの供給に依れるか故に價の廉なるへき筈なれは也、此の如き長所あらは修繕專門も亦一の好事業と謂ふへし。

四、今回講和條約締結の結果獨逸より佛國に割讓さるへきロートリンゲン（ロレイヌ）の鐵鑛區は幾何の廣さありて礦石幾何量あるやと云へは廣袤約十萬エーカーにして鐵鑛の量十八億五千萬噸なりと云ふ。

五、然るに從來佛國内に佛領ロレイヌに於て既に確知せられある鐵鑛面積十五萬エーカー三十億噸の外に尙推定に屬する三萬エーカー十億噸の鐵鑛あり、而して他の方面なるピレニース山脈及ノルマンデーに於て三億噸を有するか故に新領土の分を合して今後佛國は總計六十億噸以上の鐵鑛を所有する事となるなり。

六、獨逸は佛國に割讓したるたけ減するか故に十八億噸となり、英國は十五億噸、瑞典は十二億噸、西班牙は十億噸なり。

七、佛國は開戰當時一年の鐵鑛產額二千百萬噸（獨逸はロートリンゲンのみにて同量を產したり）なりしか今は即ち其の倍となり、之を銑に爲せは千八百萬噸なり。

◉世界鐵鋼產額 英國鐵鋼業者聯合組合の發表せる一九〇〇年より昨一九一八年度に至る世界主要產地に於ける鐵及鋼の產額左の如し。

銑鐵（單位千噸）

年度	英	米	獨	佛
一九〇〇	八、九六〇	一三、七八九	八、五一一	二、七一四
一九〇五	九、六〇八	一二、九九二	一〇、九八八	三、〇七七
一九一〇	一〇、〇一三	二七、三〇四	一四、七九三	四、〇三二
一九一一	九、五二六	二三、六五〇	一五、五二四	四、三三
一九一二	八、七五一	二九、七二七	一七、七五三	四、九三九
一九一三	一〇、二六〇	三〇、九六六	一九、二九二	五、二〇七
一九一四	八、九二四	二三、三三三	一四、三九二	・・・・
一九一五	八、七九四	二九、九一六	一一、七九〇	・・・・
一九一六	九、〇四八	三九、〇三五	一三、二八五	一、四四七
一九一七	九、四二〇	三八、六二二	一三、一四二	一、六八四

一九一八	九〇六六	三九〇五三	二、五九〇	一、二九七

鋼鐵（單位噸）

年度	英	米	獨	佛
一九〇〇	四、九〇一	一〇、一八八	六、六四六	一、五六五
一九〇五	五、八〇三	二〇、〇三四	一〇、〇六七	二、二四〇
一九一〇	六、三七四	二六、〇九五	一三、六九九	三、三九〇
一九一一	六、四六二	二三、六七六	一五、〇一九	三、六八一
一九一二	六、七九六	三一、二五一	一七、三〇一	四、四二八
一九一三	七、六六四	二一、三〇一	一八、六五九	四、六六七
一九一四	七、八三五	二三、五一三	一四、九七三	・・・・
一九一五	八、五三〇	三三、一五一	一三、二五八	・・・・
一九一六	九、一九六	四二、七七四	一六、一八三	一、九五〇
一九一七	九、八〇四	四五、〇六〇	一六、五八七	二、二三三
一九一八	九、五九一	四五、〇七三	一四、八七四	一、九一二

註　獨逸は一九一八年十月迄ルクセンブルグの産出高を包含し、同年十一月及十二月中はルクセンブルグ及ザール地方の産出高を含まざるものと知るへし。

尙英國一九一六―一八年度の鋼鐵産額中には鑄鋼品をも含む。

右表に於て注目すへきは戰時中佛獨に於ける鐵及鋼産額の減退にして特に一九一八年度に於て其甚たしきを見る。米國は之れに反し戰爭の期間中驚くへき發達を示し英國は堅く其産額を維持し戰前の地歩を失はさるのみならす鋼鐵に至りては戰時中却てその産額を增加せる點なり、而して是等四大國に於ける千九百年度銑鐵の總産額は三千四百萬噸を示し、千九百十三年度に至りては總額六千六百萬噸に約倍加したるも千九百十八年度に至り戰亂の影響を蒙り一轉して六千四百萬噸に減退を見たり。鋼鐵産額は千九百年度に於て總計二千三百萬噸を示せるもの千九百十三年に至り六千三百萬噸てふ驚くへき産出高に達したり、然るに銑鐵の場合と異り開戰後其産出增進の勢を阻めらるゝことなく千九百十八年度に於ては更に總高七千二百萬噸に增加を見たり、而して今年度に入りては次表に示すか如く獨は勿論英、米共に千九百十八年度に於ける各月平均高に比し産額減少の傾向にあるも米に於ては之れを千九百十三年度に於ける平均産額に比較する時は注意すへき增産を示しつゝあるを見るへし。

	英	米	獨
一九一三年各月平均	六三九千噸	二、六一〇	一、五二七
一九一八年各月平均	七九九	三、七五六	一、二三九
一九一九年一月	七四四	三、三〇六	五〇一
同　二月	六二六	二、九四八	四六九
同　三月	六二四	三、〇六八	五四六
同　四月	六〇三	不明	不明

（大阪朝日）

◉米鐵再制限か

某所入電によれは米國に於ける大思惑熱は容易に抑止し難く鋼鐵又は造船等に關係せる種類の騰貴著しくして鐵材は歐洲向及南米向を除ける他の輸出を制限するに至るやも計り難く英國も又輸出餘力之れ無きか如しと、這は米鐵の歐洲復舊に要するもの多く思惑熱の旺盛は假需要をも增加し價格の暴騰を示したるに因るへきか、今左に世界の主要鐵生産國の狀況を見るに銑に於ては各國何れも戰前逐年增産傾向にありしもの米國を除き戰爭開始と共に減産し佛國殊に著し米國は一時減産したりと

雖、政府造兵の造船奬勵及與國に對する軍需供給により爾來增產傾向を辿るに至れり、併し各國生產總額は未た戰前の數量に達せず。（單位千噸但獨佛兩國は米突法）

年度	英國	米國	獨國	佛國
一九〇〇	八、九六〇	一三、七八九	八、五二一	二、七一四
一九〇五	九、六〇八	二二、九九二	一〇、九八八	三、〇七七
一九一〇	一〇、〇一二	二七、三〇四	一四、七九三	四、〇三三
一九一一	九、五二六	二三、六五〇	一五、五二四	四、四二六
一九一二	八、七五一	二六、七二七	一七、五五三	四、九三九
一九一三	一〇、二六〇	三〇、九六六	一九、二九二	五、二〇七
一九一四	八、九二四	二三、三三二	一四、三九二	—
一九一五	八、七九四	二九、九一六	二、七九〇	—
一九一六	九、〇四八	三九、四三五	一三、二八五	一、四一七
一九一七	九、四三〇	三八、六二一	一三、一四二	一、六八四
一九一八	九、〇六六	三九、〇五二	一二、五九〇	一、二九七

次に鋼は獨佛兩國減產し殊に佛國に著しきを見ると雖、英米兩國は戰前に引續き生產頗る旺盛にして獨佛兩國の減產額を補塡して餘りあり、コハ兩國共に與國に對する軍需供給の地位にありしに因るへし。（單位千噸但獨佛兩國は米突法）

年度	英國	米國	獨國	佛國
一九〇〇	四、九〇一	一〇、一八八	六、六四六	一、五六五
一九〇五	五、八〇二	一〇、〇二四	一〇、〇六七	二、二四〇
一九一〇	六、三七四	二六、〇九五	一三、六九九	三、三九〇
一九一一	六、四六二	二三、六七六	一五、〇一九	三、六八一
一九一二	六、七九六	三一、二五一	一七、三〇三	四、四二八
一九一三	七、六六四	三一、三〇一	一八、九五九	四、六八七
一九一四	七、八五五	二三、五一三	一四、九七三	—
一九一五	八、五六〇	三二、一二一	一三、三五八	—
一九一六	九、一九六	四二、七七四	一六、一八三	一、九五二
一九一七	九、八〇四	四五、〇六一	一六、五八七	二、三三
一九一八	九、五九一	四五、〇七三	一四、八七四	一、九一二

更に銑の戰前千九百十三年と千九百十八年との月平均生產量を英米及獨三國に就て見るに獨逸の外英米兩國は增產を示したるか、本年一月以降の生產は休戰影響により各國共に少しと。（單位千噸但獨國は米突法）

	英國	米國	獨國
一九一三年	六三九	二、六一〇	一、五二七
一九一八年	七九九	三、七五六	一、二三九
一九一九年	—	—	—
同 一月	七四四	三、三〇六	五〇一
同 二月	六二六	二、九四八	四六九
同 三月	六二四	三、〇六八	五四六
同 四月	六〇三	—	—

◉製鐵業救濟法

笹尾鑛業課長談

戰時目覺しい許りに盛況であつた鑛業界も休戰以來俄然其の影響を受て悲境に陷つたが、製鐵業の外は近來漸く復舊の見込である、右に就き東京鑛務署笹尾鑛業課長は語る

『休戰後の鑛業界は石炭が益好況になつて居るの外鐵、亞鉛、銅等は意外の急落で少しも振はず、其他の鑛產物は大した變化もないが、製鐵業に就ては常局も非常に其救濟に苦心して、最近に於ては當局と當業者と會合して種々其方法について意見を交換したと云ふ事だから、近日中には何とか決定する事だと思ひます。又銅は此三月頃が一番下落した絕頂で其れが爲めに事業の手控へした者も少からずあつたが、昨今の相場は急落當時の八十磅に比べると五割方

の高値に戻り、追々回復の見込てあります。最も銅は外國市場にも原因しますが、此模樣で行くと近い中に全く恢復すると云ふ事は想像が出來るのであります』云々

◉英米鐵と市價　戰後に於ける日英米三國の鐵市價は一時沈衰狀態に陷りしか、事業界の回復と共に需要喚起され從つて相場も次第に見直し來れるか英國に於ては生產力不足の結果、三國中最も高値に在りて米國は依然年額四千萬噸の供給力あり、最も安値にして本邦の市價は只米相場に追隨するの趨勢を示し居れり、而して米國は最も格安なれと世界的需要集中の結果前途更に奔騰すへく豫期せらる、今三ケ國の市價を比較すれは左の如く英國は平均四五十圓方の上鞘に在り。（單位英噸當り圓）

	英國	米國	日本
銑鐵	一三五	一三五	一三〇
板	二七〇	二二〇	二五〇
棒	二四〇	二〇〇	二〇〇
型	二四〇	二〇〇	一八〇

右の如く本邦の市價は略米國と同率に在りて輸入するとも運賃諸掛たけ損失となるため此の趨勢にして持續されは前途米鐵の輸入を見ることなかるへく、旁本邦の鐵相場は當分强調を保ち得るならんかと。

◉米國銑鐵强調　八月五日當市入電に依れは紐育に於ける銑鐵はノーザン二九弗、サヾン二八弗五〇仙、ベセマー二九弗三五仙と、何れも五〇仙方昂進し、亞鉛引シート五弗七〇仙、タンクプレート二弗六五仙の强調を示せり。

◉白國鐵輸出　白耳義は戰前年額二千萬噸の鐵を產し、獨逸に亞く鐵產國として世界第四位を占めたるも、戰亂開始後獨軍の侵入により鐵の產出に大打擊を被り、本邦との取引も全然杜絶の狀態なりしか八月十九日當市入電に依れは、白耳義との鐵取引開始され、日本へ向け五六百噸の商談成立せりとあり、價格其他の內容は不明なるも是れ平和後に於ける白耳義鐵の初手合として注目に値すと。

◉鐵道屑鐵賣拂　鐵道院にては本年度に於て生する鐵屑類を引續き枝光製鐵所に賣拂ふへき契約を取結ひたるか、其豫定數量は二千六百八十八萬封度、代價四十萬四千七百六十圓にして內譯を示せは左の如し。

種類	數量	單價	代價
鋼及鐵屑	一二、一〇〇（千封度）	〇・〇一六（円）	一九三、六〇〇（円）
古車輪、軌條屑其他	七、一八〇	〇・〇二二	一五七、九〇〇
鋼及鐵旋盤削屑	七、六〇〇	〇・〇〇七	五三、二〇〇
計	二六、八八〇	—	四〇四、七六〇

◉米鐵注文減退　ユー・エス・スチール會社の六月末帳尻は鋼鐵注文契約高四〇五萬噸にして前月に比し二十萬圓の減少を示せり、當事者は初め五月中注文高か四月中注文高に比し著しく多かりし爲め、大に六月中に望を屬したりしか之れか爲め大いに失望せり、然れ共五月中の注文は一般人氣の挑發に依り來れるものにして眞實の需要にあらさ

るを了解せり、鐵道建築材料自動車用材として眞の需要は今後にありと確信し居れり、同社は七月に入りて實際纏まりたる新注文を引受け居らす。

◉米鐵生産增加　八月一日某所入電によれは、六月中の米國製鐵高は日産額七〇、四九五噸と五月より二、四九三噸の增加を示し、昨年九月戰時生産額の最高額一一三、〇〇〇噸に達せる以來の增額にして元來銑鐵は鋼鐵界の盛衰を卜すへき基準なるを以て、六月中鎔鑛爐の活況は重大なる意味を有するものとすへく、七月中の數字は未た判明せさるも一段の活躍を示さんかと。

◉鐵物益々硬調　最近米國よりの入電に依れは銑鐵は燃料高値の結果目先十五志見當の値上を豫期せられ之に伴ひ其平製品も十志位の値上を見る可く、鋼棒は十四磅鍼力は三十四志乃至三十四志半の値上を見るへき狀態に在りと云へり、而して內地市況を見るに目下夏枯の時期とて荷動きは左程活潑と云ふ程度ならされとも、何分品ガスレの爲め相當高値を維持し一方海外の事情を見れは、英國は石炭同盟等の事情より石炭は益々高値となり勞賃昂騰の趨勢に在りて目先安値供給は困難なる而已ならす、先行相當數量を輸出する事亦容易ならさるか如く又米國に於ても各種工業の發展と共に自國の需用著しく增加したるを以て近時生産能力增大に比例する東洋向輸出は先つ困難と見られ、殊に英國の輸出能力か大ならさる限り之と競爭的態度を採り安値商談に應するの必要なく從つて相場は入電毎に高値を報し居る有樣なり、尙內地製鐵所の生産狀態を見れは製造能力の最も大なる八幡製鐵所の如き年內民間への供給高は世人の豫想に反し更に少額なる見込にして何れの方面より觀測するも、目先は比較的强材料に充され居るか故に今秋需用期節に入らは非常の高値を現はす事無からんも相當般盛を示すならんと期待する者あり、斯くて目下の相場は棒鐵八圓板十一圓薄板十二圓乃至十三圓（薄板にして品ガスレのものは十七八圓乃至二十錢）見當を唱へ市況頗る强硬の成行を呈しつゝありと。

◉製鐵賣價引上　八幡製鐵所は市價との平衡を保つ爲め今回其賣渡し價格を左の通り改定し八月十五日より實施せるか現在價格に比し丸鐵及平鐵十五圓乃至二十圓、チャンネル十圓、ヂョイユト十圓、厚板三十五圓の値上けにしてアングルは變らす薄板は六十圓の値下なり尙總體平均五分より一割方の引上けに相當せり。

▲丸鐵四分の三吋乃至一吋二百圓ベース、同一吋より三吋百九十圓ベース▲角鐵二百十五圓ベース▲平鐵二百二十圓ベース▲アングル百九十圓ベース▲チャンネル二百二十五圓ベース▲ジョイスト二百十五圓ベース▲厚板四分の一乃至二分の一吋二百三十五圓、二分の一以上二百二十五圓、其他並もの二百六十圓▲薄板ゲージナンバー

二十八三百二十五圓、十六分の三吋三百圓

◉鐵類相場强硬　最近英國よりの入電に依れは同國内に於ける銑鐵及鋼力等は石炭の騰貴其主因となり生産費か著しく增嵩したると需要の增加とに依り到底安値にては賣出し得さる實狀に在りと云へり、又米國に於てはユー・エス・トラストの五月末現在引渡濟注文高は四百六十萬噸なりしか六月末現在に至り前月末に比し三十萬噸を增加して四百九十萬噸となれり、是れ主として自動車製造業者の注文激增せるに基因するもの也、斯の如く英米共に需要增加したると生産費增嵩の爲め當分値段の引緩みは期待し難き狀態なるに加へ内地も休戰當時一時沈衰の氣味を現したる經濟界か講和成立と共に漸次恢復し來り其需要漸增的步調を辿るに伴ひ相場亦大いに持直し來り而も一時先安を見込み買控へたる需要家は生産費の關係等より打算し當分今日の相場以下に低落す可き見込なしとの見當を付け弗々買出し始めたるを以て相場は益々底堅き成行を呈するに至れり、即ちバー並吋物七圓五十錢アングル七圓鐵板並吋十圓薄板十四五圓鋼力板百磅入二十七圓同百七十磅入四十八圓○三五釘二十二三圓針金(八番)十四圓銑鐵百三十五圓見當を唱え得れり。

◉鐵鋼自給懇談　日本工業倶樂部にては七月九日午後三時より鄉男、中島男、今井、和田、小田垣、白石、今泉各理事間に於て鐵鋼業問題に關し其後海外事情に變化ありし市況も漸次恢復しつゝあるも未た悲境を免れさる内地鐵鋼業者の實況を調査研究の結果、懇談會を開きたるか豫て政府當局に申請せる具體的成案に對しても自然何等かの施策を促すに至るへきか尙十日評議員午餐會を開き堀越善重郎氏の最近歐米經濟談を聽取せり。

◉製鐵救濟再請　日本工業倶樂部製鐵懇和會は七月十四日鐵道協會に於て開會し前回に引續き本邦製鐵業の救濟策に就き協議し大體の成案を見たるも、其内容は嚴秘に附せられ居れは之を詳細に知る能はさるも現在の鐵價にては到底生産費を償ふ能はされは製鐵輸入關稅の引上、鐵價の制限等大體前回政府に請願せる決議と同一なるものを再度政府に請願するものなりと。

◉職工災害數　農商務省調査に據れは大正七年中各府縣の二百七十四工場に於ける職工の災害數は負傷千三百二十五死亡二百七十六にして工業別に其の重なるものを擧くれは、船舶、車輛製造業の死傷四百四十五人を最多とし、製絲三十三、紡績百三十八織物五十、染色及加工三十八、機械製造百二十一、金屬品製造二百二十八、窯業五十二、製紙七十八、木竹蔓製品四十九、雜業二十六、金屬精錬七十等なり。

◉鐵鋼研究所規定　九月より開始さるゝ本多博士の鐵鋼研究所には各方面より入所希望者ある由なるか大學に於ては是等の入學希望者を聽講生として學力試驗の上入所

せしむることになり居れり。

◉三菱製鋼進捗　長崎市浦上に二萬五千坪の地を相し建築中の三菱製鋼所は已に木型場、鑄物場は完成し鍛錬場、機械場も大部分建設工事を終へ、鑄物場にては已に數月前より造船用具の製出をなしつゝあるか、同所は一箇年製鋼一萬三十噸以上の豫定にして現今にては九州第一なるか原料の銑鐵は英國及朝鮮兼二浦の三菱製鐵所本溪湖製鐵所等より供給せらるゝ筈にて製品は殆と全部三菱造船所用に供せられ、三菱造船所の自給自足を完成せんとするものなるか、目下三菱にては球磨、木曾兩艦及澤風、矢風、羽風、沖風の建造の外明年度に於ては土佐並に驅逐艦二隻、巡洋艦一隻の建造下命を受居る事とて、同製鋼所は孜々工事を急き鍛錬場には四千噸及千五百噸の水壓クレーンを据へ機械場にはシャフト穿孔機並にテストプース新式の試驗體の如き尤も斬新の者を据付くる筈にて遲くも十一月頃には全部の竣成を見るならんか、動力は總て電氣にて一日千基乃至千五百基を要する由、同所の資本は公稱五百五十萬圓なるも尚ほ引續き第二期第三期と擴張の計畫なれと俄に確定し難し。

◉電氣製鋼擴張　電氣製鋼所熱田增設工場第一期工事として現工場南なる百七十坪の鑄造工場は鐵筋コンクリートを以て建築既に終了し、目下一千基の電氣爐を据附中なるか七月中には略其完成を見遲くも八月中に開始の運ひとなるへしと、尚之に要する電力は木曾製鐵より供給を受くる筈なり。

◉漢口製鐵所計畫　漢口に於て梁士詒氏一派か米商愼昌洋行と結託して湖北湖南江西三省の鐵鑛を一手に收め大規模の鋼鐵公司創設の計畫を樹て孫武士專ら奔走しつゝありと。

◉臺灣鐵鑛業の好望　一時非常の好人氣を博せし桃園新竹兩廳下の鐵鑛業熱も其の後和局と同時に鐵價の下押しを演せし爲め、殆と打捨てゝ又顧られさるの有樣なりしか臺灣電力設立されて將來比較的割安の電動力の供給さるれは現に鐵の含有率五〇%內外を示す本島の鐵鑛は之れか精錬加工を爲せは相當の聲價を告くるに至るへしとて、昨今遽かに好望視せられつゝあれは遠らす資本筋の企業目論見を告くるに至るへしと云ふ。

◉銑鐵生產狀態　講和後に於ける銑鐵の情勢は一般に注目怠らさる所なるか、最近の入電に依れは、英國銑鐵は礦石及石炭の供給意の如くならさる爲め、國內の需要を充すに過きすして本年度內に於ては輸出能力なく、米國は勞働問題の協調に依り生產方には何等の影響を及さゝるも、勞銀の今日以下に低下するの見込なく、其結果相場は本邦沖着百二十圓以下にては買付不能の狀態にあると同時に、印度のタタ及ベンガルは國內の需要多く現今に於ては輸出餘力を存せす、漸く前年度の特許に係る川崎造船及神

戸製鋼所の既約品を弗々輸出せるに過きすして新規約は全然拒絶の狀態にあり、更に本邦に於ける銑鐵は釜石に於て礦石供給容易なる爲め比較的安値に生産されつゝある以外に、輪西は高値當時の材料を擁せる關係上生産費增高せるものゝ如く、東洋製鐵は未た確なる方針立たす、漢陽銑鐵に至つては古河、久原等大手筋との間に於て前年八九月頃二萬噸餘の契約行はれ其後市價の暴落にて、目下悶着中にて、一部は上海市場に在荷あるも百五十圓見當を唱へ、滿洲鞍山站は數箇月以前出鐵せるも品質區々にして市場への供給は尚今後に屬する現況にあるか、一方昨今造船界の稍生氣付けると共に當用口は弗々買氣を洩らし來りたるより、市場品薄の爲め輪西四百三十五圓、兼二浦百三十圓見當を唱へつゝあと。

◉特許

前號報告後鐵鋼に關係あるものを摘錄すれは左の如し。

第三四五二二號（大正七年四月四日出願　大正八年六月二十一日特許　特許權者長野縣　前田彌市）

鐵筋鑄型

發明の性質及目的の要領　此發明は鑄鐵製鑄型の外圍に錬鐵又は軟鋼環又は杆又は網を鑄込みたる構造に係り、其目的とする所はチルド鑄物インゴット鑄物類の製造に際し鑄型の破裂を防き永く使用に堪へしむるにあり。

特許請求の範圍　本文記載の目的を達する爲め、本文に詳記し且別紙圖面に示す如く鑄鐵製鑄型の外面に近き位置に錬鐵又は軟鋼環、杆若くは網を鑄込みたる構造。

第三四五六四號（大正六年四月二十六日出願　大正八年六月二十五日特許　權者　諾威國　フヒリップ、サラルドゼン）

亞鉛又は他の揮發性金屬を其生鑛より採取する電氣爐

發明の性質及目的の要領　本發明は水平なる積層を形成する塡裝物を連續的に還元室底に位置せしむるか爲め、爐底部を水平に運動し其一部を交互に還元室底に充當せしむる如くなしたる電氣爐に係り、其目的とする所は塡充物を均齊に加熱して處理し得せしめ、以て從來の裝置に於ける缺點を除去し得せしむるに在り。

特許請求の範圍　一、本文所記の目的を達せんか爲め、本文に詳記し、且別紙圖面に示すか如く、水平なる積層を形成する塡裝物を連續的に還元室底に位置せしむる爲め、爐底部を水平に運動し其一部を交互に還元室底に充當せしむる如くなしたる電氣爐　二、本文所記の目的を達せんか爲め、本文に詳記し且別紙圖面に示すか如く、還元室の兩側に控室を構成し、其一を塡裝室に他を礦滓室に充當すへくなしたる前項所載の電氣爐。三、本文所記の目的を達せんか爲め、本文に詳記し、且別紙圖面に示すか如く、裝入材料の頂部を掻き均らす爲め、還元室側下緣と底臺との間に適當の間隙を存し、而も底臺に對し直角をなさしめたる、第一項所載の電氣爐。四、本文所記の目的を達せんか爲め、本文に詳記し、且別紙圖面に示すか如く臺側に設たる突緣を爐壁に設たる突緣と適當せしめ、材料として塡料の役を爲さしむるに適せしめたる第一項所載の電氣爐。五、本文所記の目的を達せんか爲め、本文に詳記し、且別紙圖面に示すか如き全構造を有する電氣爐。